

「ごめんな」

ナナが入院したと聞いたのは、放課後だった。

裏山の石段で足をすべらせて、足首をひどくひねったらしい。

骨は折れていない。

でも靱帯を痛めたかもしれないから、病院で一晩だけ様子を見ることになったそうだ。

おれは胸のあたりが、ぎゅっとなった。

昨日、ナナとくだらないことでケンカした。

どっちが先にジユンの気持ちをはかるか、なんてことで、だ。ばかみたいだ。

そのとき、ナナが前に言っていたことを思い出した。

裏山の奥に咲く、小さな青い花が好きだって。

おれは懐中電灯をにぎって、裏山へ走った。

花を一本だけ取って、夜の病院にそっと入る。

ナナの病室を見つけるまで、心臓がばくばくした。

枕元に花を置いた。

「ごめんな」

それだけ言って、おれは逃げるみたいに帰った。

朝、ナナは枕元の花をみつけた。裏山の奥に咲く、小さな青い花。

その花を好きだと話した相手は、リョウタだけだった。

ナナは少し笑って、つぶやいた。

「ほんと、しょうがないな、リョウタ。」